



緑蔭 1974年(昭和49年)西川一平(前会長)

第63期 株主通信

2011年4月1日から2012年3月31日まで

財務ハイライト

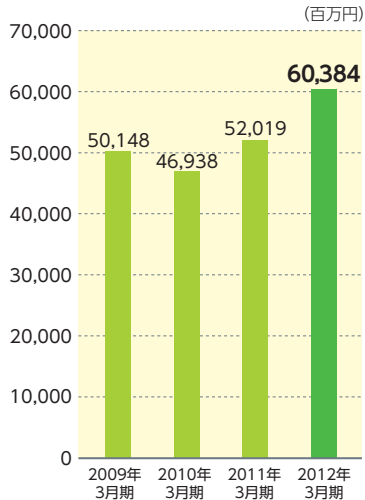
売上高

60,384
百万円



(前年同期比)
16.1%増

持分法適用会社であったニシカワ・クーパーLLCを連結子会社化したことにより、前年同期比16.1%増加しました。



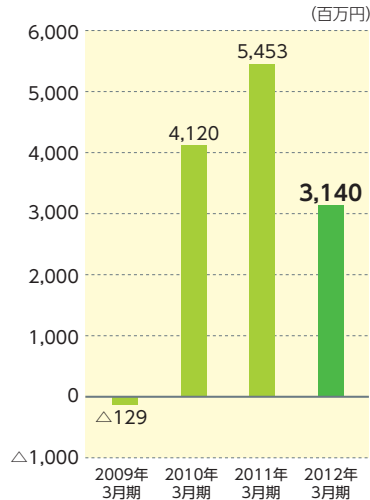
経常利益

3,140
百万円



(前年同期比)
42.4%減

東日本大震災による操業度の低下および原材料価格の上昇が大きく影響し、前年同期比42.4%の減益となりました。

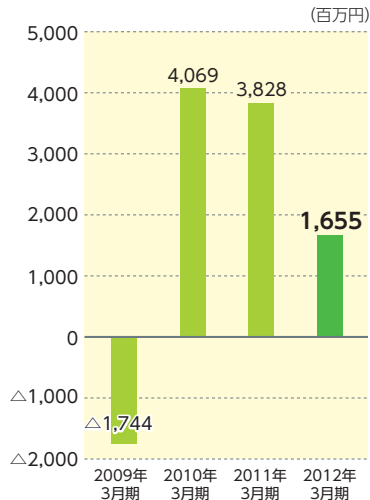


当期純利益

1,655
百万円
（前年同期比
56.8%減）



経常利益が減少したことなどにより、前年同期比56.8%の減益となりました。

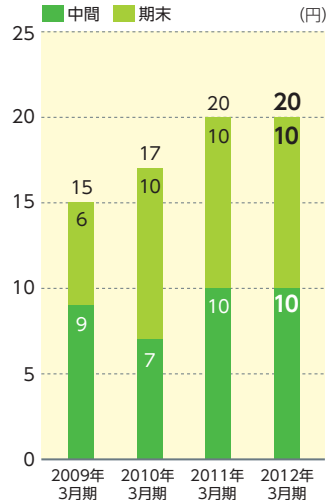


1株当たり年間配当金

20
円



当期の期末配当は1株当たり10円とさせていただき、中間配当金をあわせ年間配当金は、1株当たり20円となりました。



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第63期株主通信をお届けいたします。

代表取締役社長 西川正洋



第63期(2012年3月期)はどのような年でしたか。

この一年を振り返ると、東日本大震災に続いてタイにて洪水被害が発生するなど、世界規模で甚大な天災が相次いだことから、まるでジェットコースターに乗っているかのような、浮き沈みの激しい経営環境でした。

自動車部品業界では、円高の進行につれて自動車の輸出にブレーキがかかり、当社の主要得意先である自動車メーカーからの受注量が増減を繰り返したことで、対応に苦慮しました。一般産業資材業界では、主力分野の住宅関連製品において新設住宅着工戸数が堅調に推移しました。一方、海外では、中国をはじめとする新興国市場の経済成長がみられたものの、欧州の債務危機を背景とした記録的な円高水準、原油価格の高騰などさまざまなリスクにさらされたことから総じて厳しい一年でありましたが、逆に言うとリスクに対する対応力がついた一年であったと思います。

Q 厳しい市場環境に
どう対応されたのでしょうか。

A
Answer 製造業は毎月一定した量の製品を生産するのが理想です。受注量の変動が大きいと生産効率が落ちるだけでなく、さまざまなコストアップが発生します。そこで、当社では受注量の変動によって生じるムダを取り除く活動を行うことで生産効率の維持に努めました。同時にグループをあげて総コスト低減活動を継続してきました。

その結果、第63期は売上高603億84百万円(前年同期比16.1%増)、経常利益31億40百万円(同42.4%減)、当期純利益16億55百万円(同56.8%減)となりました。



Q メキシコへの進出など
海外展開について教えてください。

A
Answer 主要顧客のグローバル展開に的確に対応するため、工場建設を決定しました。現地法人の名称は「ニシカワ・クーパー・メキシコ S.A. de C.V.」で、2013年の操業開始を目指しています。冒頭で申したように長引く円高に対しては、一段のコストダウンに加えて、海外の成長市場で生産高を伸ばしていくグローバル戦略が不可欠と考えます。

このほか海外展開としては、昨年11月にインドの合併会社に対する出資比率を従来の20%から50%に引き上げました。また、タイや中国での生産能力の増強も急いでいます。今後も円の強さをいかして世界の各拠点で事業基盤の強化を図っていきます。

※メキシコ進出について、詳しくは7ページをご覧ください。

Q 新規事業についての 取り組み状況はいかがでしょう。

A Answer
これまでもさまざまな展示会やセミナー、産・官・学の協議会等において多種多様なアイテムを検討し、新製品の企画力強化に向けて活動してきました。さらに、成長分野の追求と革新的なコスト削減をめざして、昨年度に「革新テーマ創出・成長戦略ワーキンググループ」を創設しました。専任のスタッフをおき、当社がこれまで培ってきたコア技術をいかせる事業分野、新製品企画を検討して、アイテムを絞り込んでいます。

またこの度、新たな取り組みとして、当社の全社員を対象に新事業・新製品アイデアの募集を行いました。これまでの研究分野等の知識や、日頃の業務の中でひらめいたことから、多数の提

案が寄せられています。提案内容については今後、事業化に向けた検討を行っていく予定です。

Q 今後の展開をお聞かせください。

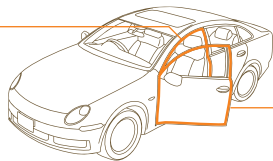
A Answer
当社グループは、卓越したシール&フォームエンジニアリングから生み出す製品・サービスを通じて、引き続き世界中のお客様に「快適」をお届けする企業グループを目指しています。

生産現場における新しい取り組みとして、今年度から良品稼働率管理を全社的に取り込むこととし、サイクルタイムどおりに製品を作り流すことを追求していきます。その結果、能率・歩留まりの向上を図り、高効率で安定したものづくりが実現できると考えています。

さらに、引き続き西川ゴムグループ総コスト低減活動を強
力に推進し、最大限の収益確保、国際競争力のある原価を企
及していきます。

自動車用部品事業の主力製品

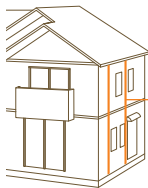
ウェザーストリップ・
ドアインナー



ウェザーストリップ・
ドアアウター



一般産業資材事業の主力製品



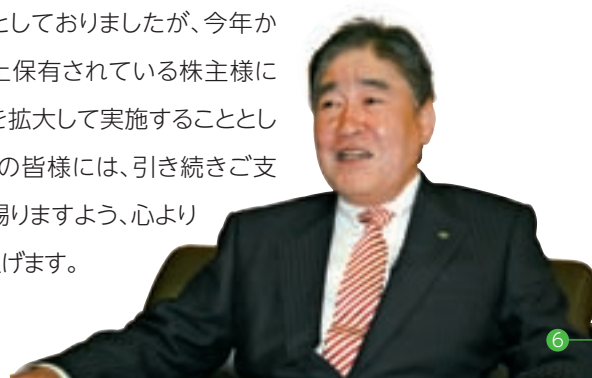
住宅用目地ガスケット



配当など、株主への利益還元に関して お聞かせください。

当社は、業績の安定的向上と安定配当の継続、
配当性向等を勘案し、さらに経営環境や財務体質
の強化にも十分配慮し、配当額を決定しています。当期は1株に
つき年間20円とさせていただきます。

また、株主優待制度については、従来1,000株以上保有の株
主様を対象としておりましたが、今年か
ら100株以上保有されている株主様
にも対象範囲を拡大して実施することと
しました。株主の皆様には、引き続きご支
援ご鞭撻を賜りますよう、心より
お願い申し上げます。



メキシコに新工場 2013年の稼働開始に向けて建設中

当社はメキシコ中部の工業団地内に、新たに現地法人を設立しました。現在、新工場を建設中です。これは日系の自動車メーカーが同国に新たな生産拠点を設けることにもなうもので、2013年の稼働に向けて準備を進めています。稼働後、3～4年後には年間20億円以上の売上を計画しています。

メキシコには、政府による自動車産業の誘致によってメーカー各社が進出しており、同国の自動車生産台数は着実に伸びています。当社グループは、新工場の稼働によって、今後、海外顧客への対応強化と製品の拡販を図っていきます。



新工場完成イメージ



会社概要・株式情報 (2012年3月31日現在)

会社概要

社名 西川ゴム工業株式会社
 本社所在地 広島市西区三篠町二丁目2番8号
 (TEL. 082-237-9371 代表)
 設立 1949年(昭和24年)4月
 資本金 33億6,448万660円
 従業員数 1,295名

役員

(2012年6月27日現在)

代表取締役社長	西川 正洋	取締役	米山 昌一
代表取締役副社長	山本 文治	取締役	丸目 義博
専務取締役	児玉 照三	取締役	佐々木賢治
常務取締役	三好 修仁	取締役	内藤 真
常務取締役	勝丸 幹夫	取締役	京本 敬二
常務取締役	福岡 美朝	常任監査役 (常勤)	濱本 繁樹
常務取締役	片岡 伸和	社外監査役	白井龍一郎
取締役	西川 泰央	社外監査役	大迫 唯志

株式の状況

発行可能株式総数…………… 48,343,000株
 発行済株式の総数…………… 19,995,387株
 株主数…………… 1,530名

●大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
西川正洋	2,534	12.94
西川ゴム工業 取引先持株会	1,105	5.64
株式会社広島銀行	957	4.89
株式会社ハイレックス コーポレーション	757	3.87
西川泰央	747	3.82

(注)持株比率は、自己株式(416,147株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月開催
 一単元の株式数 100株
 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当金 毎年3月31日
 中間配当金 毎年9月30日
 株主名簿管理人 (特別口座の管理機関) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒183-8701
 東京都府中市日鋼町1番10
 三井住友信託銀行株式会社
 証券代行部
 電話照会先 ☎0120-176-417
 公告の方法 日本経済新聞に掲載する

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当期 2012年3月31日	前期 2011年3月31日
資産の部		
流動資産	38,286	37,500
固定資産	33,485	34,334
有形固定資産	19,319	20,128
無形固定資産	2,419	2,899
投資その他の資産	11,746	11,307
資産合計	71,771	71,835

科目	当期 2012年3月31日	前期 2011年3月31日
負債の部		
流動負債	19,964	25,362
固定負債	8,882	4,395
負債合計	28,847	29,757
純資産の部		
株主資本	43,259	41,990
資本金	3,364	3,364
資本剰余金	3,660	3,660
利益剰余金	36,656	35,392
自己株式	△ 422	△ 427
その他の包括利益累計額	△ 1,745	△ 1,688
その他有価証券評価差額金	1,034	942
為替換算調整勘定	△ 2,779	△ 2,630
新株予約権	—	5
少数株主持分	1,409	1,769
純資産合計	42,924	42,077
負債・純資産合計	71,771	71,835

連結財務諸表(要約)

連結損益計算書

単位:百万円

科目	当期	前期
	2011年4月1日から 2012年3月31日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで
売上高	60,384	52,019
売上原価	49,692	40,777
売上総利益	10,692	11,242
販売費及び一般管理費	7,666	6,467
営業利益	3,026	4,775
営業外収益	498	1,114
営業外費用	384	435
経常利益	3,140	5,453
特別利益	6	832
特別損失	33	1,076
税金等調整前当期純利益	3,113	5,209
法人税、住民税及び事業税	841	1,191
過年度法人税等	81	-
法人税等調整額	342	171
少数株主損益調整前当期純利益	1,848	3,846
少数株主利益	192	17
当期純利益	1,655	3,828

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当期	前期
	2011年4月1日から 2012年3月31日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,434	8,406
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,936	△ 5,865
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 810	△ 671
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 314	1,872
現金及び現金同等物の期首残高	11,745	9,872
現金及び現金同等物の期末残高	11,430	11,745

第63回 定時株主総会 決議ご通知

2012年6月27日
開催の当社第63回
定時株主総会にお
いて、右記のとおり
報告ならびに決議さ
れましたのでご通知
申し上げます。

[報告事項]

1. 第63期(2011年4月1日から2012年3月31日まで)事業報告および連結計算書類ならびに計算書類報告の件
2. 会計監査人および監査役会の第63期連結計算書類監査結果報告の件

[決議事項]

第1号議案 剰余金処分の件

本件は、原案のとおり承認可決され、期末配当金は1株につき10円と決定いたしました。

第2号議案 取締役3名選任の件

本件は、原案のとおり取締役に佐々木 賢治氏、内藤 真氏、京本 敬二氏が選任され、就任いたしました。

第3号議案 監査役2名選任の件

本件は、原案のとおり監査役に瀨本 繁樹氏、大迫 唯志氏が選任され、就任いたしました。

第4号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本件は、原案のとおり退任取締役高杉 雅信氏に対し、退職慰労金を贈呈することとし、その具体的金額、贈呈の時期、方法等は取締役会に一任することに承認可決されました。

第5号議案 退任監査役に対し退職慰労金贈呈の件

本件は、原案のとおり退任監査役加藤 寛氏に対し、退職慰労金を贈呈することとし、その具体的金額、贈呈の時期、方法等は監査役の協議に一任することに承認可決されました。

株主優待のご案内

株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、事業内容をより一層ご理解いただくために、株主優待制度を実施しています。
贈呈時期は、毎年7月を予定しています。



所有株式数

100株以上～1,000株未満 **新設**
1,000円相当の当社開発関連商品

所有株式数

1,000株以上～5,000株未満
3,000円相当の当社開発関連商品

所有株式数

5,000株以上
5,000円相当の当社開発関連商品

※上記の写真は優待品イメージです。
実際の仕様とは異なりますのでご了承ください。

